

H 2 6 年度 研究の概要

1 研究テーマ（H 2 5 年度～H 2 7 年度の3年間計画）

「一人一人の社会参加につながる生きる力を育む授業づくり」

2 研究テーマについて

（1）テーマ設定の理由

本校は、病弱・肢体不自由児を対象として小学部・中学部・高等部を設置する特別支援学校である。

平成25年度から、今までの研究の成果を継承しながら、新しいテーマを掲げ、3年間計画で研究に取り組んでいる。

本校の児童生徒の実態を受け、以下の「めざす学校像」「めざす児童生徒像」が達成できるような研究をめざしている。

＜めざす学校像＞

人との関わりを深め、自分らしさを発揮しながら、生きる意欲や自己肯定感を育む学校

＜めざす児童生徒像＞

○豊かな自己表出・表現ができる児童生徒

○仲間との関わりを深め、自己肯定感がもてる児童生徒

○様々な工夫をしながら、できることに挑戦する児童生徒

（2）研究仮説

児童生徒一人一人の障がいの特性や課題を明らかにし、将来の生活や進路先での生活に必要な力やつきたい力を整理し、それを学習内容に反映させながら授業実践を行う。具体的には実態把握のチェックリスト等を使って実態把握をしたり、事例を上げながら障がいの特性や支援方法を明らかにしたりする。そして、自発的な反応や動きを促進し、自己理解を高め、自立的な生活力を身に付け、良好な人間関係を作っていくための指導を行うことで、社会の中で自分らしく自立的に生活できる「生きる力」が育つのではないかというのが本研究の仮説である。

＜3年間の計画＞

H 2 5 年度：模索

- ・「一人一人の社会参加につながる生きる力を育む授業」をめざすという意識を高める。
- ・事例検討や授業実践をもとに話し合い、障がい特性や課題を見つける。

H 2 6 年度：進める

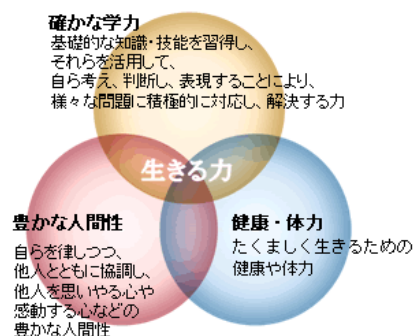
- ・児童生徒の「生きる力」「社会参加」について具体的な姿をイメージし、そのために必要な力を整理する。
- ・理論研修により、障がい特性に応じた指導支援の工夫を行う。
- ・実態把握を丁寧に行い、学習内容に反映させる。

H 2 7 年度：深める、まとめる

- ・「一人一人の社会参加につながる生きる力を育む授業」とは、どういう授業なのか、全職員が大事なポイントを共通理解している。
- ・児童生徒は、授業に意欲的に取り組み、自己表出・表現する力に成長がみられる、また、自己肯定感を高めている。
- ・教職員一人一人が主体的に取り組み、教師集団全体の専門性、指導力が向上している。

（3）「生きる力」について

学習指導要領（H 2 3）では、「生きる力」を知・徳・体のバランスのとれた力としている。「変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健康やかな身体の知・徳・体をバランスよく育てることが大切です。」とある。



3 研究内容

(1) H25年度の取り組み

児童生徒の実態に応じた3グループに分かれて、病弱教育と肢体不自由教育を柱に取り組んだ。各グループのテーマに沿って主にグループ毎に研究を進めた。グループ毎に研究方法は異なるが、児童生徒一人一人の障がい特性について理解を深め、特性に応じた指導支援の工夫について検討した。全体では授業（実践）研究会を2回実施し、研究を深めるとともに全職員による共通理解を進めることができた。グループや全体の研究会には、スーパーバイザーとして県内外の講師を招聘し、適切な助言を得て実践につながった。また、一人一授業公開（実践）により、自らの課題として主体的に研究に取り組み、授業研究会の方法を工夫することで授業者を支援し次の実践につながった。研究を進める中で、授業づくりに対する教職員の意欲の向上とともに児童生徒の姿に少しずつ変化が見られた。

(2) H26年度の取り組みの重点

H26年度は、昨年度の成果や課題を受け、グループ研究を中心に進めながら、以下の点に重点を置いて取り組みたい。

- 児童生徒の「社会参加」「生きる力」について、具体的な姿をイメージし、そのためにはどのような力が必要なのかを各グループで話し合い、整理する。
- 理論研修により、障がい特性に応じた指導支援の工夫につなげる。
- 実態把握（チェックリスト、諸検査の活用）を丁寧に行い、学習内容に反映（個別の指導計画との関連をみる）させる。
- 一人一授業公開（授業実践）に取り組む。

4 研究計画

(1) 研究グループの編成

- 1グループ 主に小中高単一障がい学級
テーマ「病弱の児童生徒の基礎的な学力と人や社会と関わる力を高める授業づくり」
- 2グループ 主に小中重複障がい学級Ⅰ型・高生活コースグループ
(教科・教科等を合わせた指導中心)
テーマ「身近な社会の中で生きる力を育む授業づくり」
- 3グループ 主に小中重複障がい学級Ⅱ型・高ふれあいコースグループ（自立活動中心）
テーマ「子どもの実態に応じた自立活動の指導の充実～教育課程の見直しを目指して～」

(2) 今年度の研究方法

- ① 研究はじまりの会・まとめの会
5月と2月に実施し、全体で研究について共通理解を図る。
- ② グループ研究会
月に1回実施する。各グループのテーマに沿って、理論研修・授業づくり・授業研究・事例研究・教材づくり等に取り組む。
- ③ 全体授業（事例）研究会
 - 11月27日に、2・3グループの授業公開をし、研究会を行う。鳥取県肢体不自由教育研究会と兼ねる。講師は、県内指導主事等に依頼する。
 - 12月5日に、1グループの事例発表を行い、研究会を行う。和歌山大学の武田鉄郎氏を招聘し、助言を受ける。（ネットワーク構築事業予算活用）
- ④ 職員研修
 - 6月9日の2・3グループ研究会に淑徳大学発達臨床センターの川口真理子氏を招聘し、授業に対する助言と講義を受ける。（アドバイザー派遣事業予算活用）
 - 8月4日に中四国病弱教育研究会の発表の事前報告を行う実践報告会を実施する。
- ⑤ 研究集録
研究の取り組みと資料をまとめる。

<年間予定>

5月 1日	研究はじまりの会 「今年度の研究の取り組み」
5月 13日	グループ研究会
6月 9日	グループ研究会 ○2・3グループ研究会（アドバイザー派遣事業） 講師：川口真理子先生（淑徳大学発達臨床研究センター）
6月 24日	グループ研究会
7月 24日	グループ研究会
8月 4日	実践報告会（中四病発表事前報告）
8月 25日	グループ研究会
9月 29日	グループ研究会
10月 30日	グループ研究会
11月 13日	グループ研究会
11月 27日	全体授業研究会（2・3グループ授業研究会） ＊鳥取県肢体不自由教育研究会を兼ねる。講師：県内指導主事等
11月 28日	グループ研究会（1グループ）
12月 5日	全体研究会（1グループ実践研究会） 講師：武田鉄郎先生（和歌山大学）
12月 9日	グループ研究会
1月 27日	グループ研究会
2月～	研究集録作成
2月 25日	研究まとめの会 「今年度の各グループの取り組みの成果とまとめ、来年度の方向性」